

SHOW HEY シネマールーム

★★★

パブリック 図書館の奇跡

2018年/アメリカ映画
配給：ロングライド/19分

2020 (令和2) 年7月24日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督・製作・脚本：エミリオ・エステベス
出演：エミリオ・エステベス/アレックス・ポールドウィン/ジェナ・マローン/テイラー・シリング/クリスチャン・スレイター/ガブリエル・ユニオン/ジェフリー・ライト/マイケル・ケネス・ウィリアムズ/チェ・“ライムフェスト”・スミス/ジェイコブ・バルガス

■ショートコメント■

◆本作のチラシには「名優エミリオ・エステベスの監督最高傑作！明日を照らせ！生きるために声を上げた彼らと、図書館員の勇氣ある行動があなたに希望を届ける感動作。」の見出しが躍っている。そして、次のとおり紹介されている。

実際の記事から着想。突然“命の避難所”となった公共図書館を舞台に、サプライズ満載の人間模様と奇跡の瞬間を映し出す
笑いと涙のフィールグッドな名作が誕生

ある公共図書館の元副理事がロサンゼルス・タイムズに寄稿したエッセイにインスピレーションを得て、完成までに11年を費やし監督したのは名優エミリオ・エステベス。米オハイオ州シンシナティ。記録的な大寒波により、緊急シェルターがいっぱいで行き場がないホームレスの集団が図書館を占拠した。突如勃発した大騒動に巻き込まれたひとりの図書館員の奮闘を軸に、笑いと涙たっぷり、予測不可能なサプライズも盛り込まれた感動作。

◆チラシによると、本作のストーリーは次のとおりだ。

「約70人のホームレスの苦境を察したスチュアート（エミリオ・エステベス）は、彼らと共に図書館に立てこもることに。しかし、図書館館長、刑事と検察官、マスコミなどそれぞれの思惑が交錯。やがて警察の機動隊が出動し、追いつめられたスチュアートとホームレスは驚愕の行動を決断する・・・。」

◆これらを読むと、本作は一瞬ドキュメンタリー映画かと思ったが、どうやらそうではないらしい。「主人公の勇氣ある行動は、今を生きる私たちにそっと語り掛けてくれるような問いかけであり、あらゆる観客の胸に響くに違いない。」という殺し文句(?)にひかれて劇場に赴いたが・・・。

◆名優エミリオ・エステベスの最高傑作。そう言われても、私はその名優自体を知らない。本作ではそんなエミリオ・エステベスが脚本、製作、監督、主演の4役を兼ねているが、その存在感は私にはイマイチ。そもそも、アメリカの公共図書館って一体ナニ？日本の公立の図書館と何がどう違うの？

しかして、オハイオ州のシンシナティでいくら大寒波が続いていたとしても、また、多くのホームレスが命の危機を感じていたとしても、彼らが公共図書館を占拠することが許されるの？約70人のホームレスから「占拠宣言」を受けた場合、そこで働く一職員であるスチュアートが図書館長の意向に逆らってまで、それに賛同することができるの？

本作は、ある公共図書館元副理事がロサンゼルス・タイムスに寄稿したエッセイにインスピレーションをうけたエミリオ監督が11年かけて映画化したそうだが、本作のどこが、どんな奇跡なの？

◆7月17日付朝日新聞の映画評で、月永理絵氏（映画ライター）は「先の読めない展開のなか、各々の思惑や過去が徐々に浮かび上がる。さりげない細部から人物像を描き出し、群像劇のようにつなぎ合わせる。円熟した演出手腕に惚れ惚れする。」と書いている。さらに「人々が抱える孤独、怒りが連鎖し、やがて大きなうねりを作り出す。小さな声から大きな力へ。映画の奇跡は、まさにその瞬間に誕生する。」と絶賛している。しかし、本作ラストの「もはや強行突入もやむなし」という状況下での「あっと驚く結末」を含めて、本作の問題提起も、その「解決(?)」も、私にはイマイチ。こりゃ、ちょっと褒めすぎでは・・・？

2020（令和2）年7月28日記